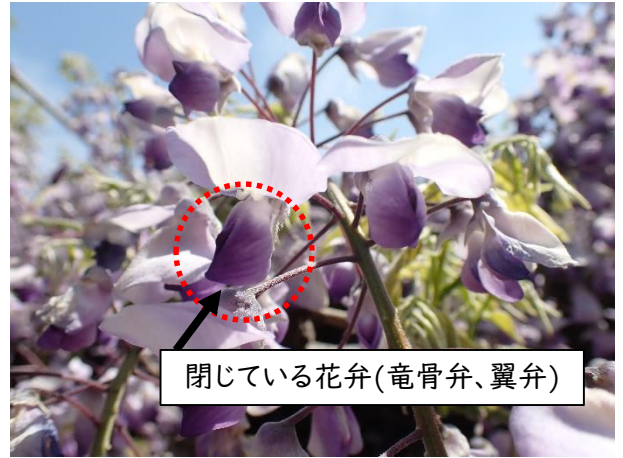


植物多様性センターの「フジの花」

情報館前にあるフジ(ノダフジ)が今年も元気に咲き、周囲に甘い香りを漂わせています。園芸では藤棚や1本立ちで仕立てられますが、本来は林縁などで他の木に絡みついで生育しています。平安時代にはマツに絡むフジが好まれて、短歌でも他の木に慎ましく寄り添う様子が多く歌われています。しかし、林業では他の木を強く締め付けて弱らせ、殺してしまうこともある厄介者。寿命も大変長く、千年以上生きていると言われるフジもあります。優しい花のイメージとは違って、とても強い植物です。

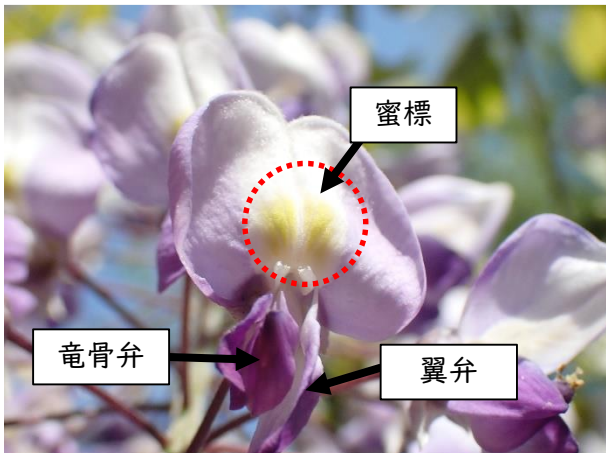


風で揺れる藤色の長い花序。



閉じている花弁(竜骨弁、翼弁)

開花しても雌ずいと雄ずいを包む花弁は閉じたまま。



花びらにある黄色い箇所は蜜の在処を示すための蜜標。



クマバチなどが蜜を吸うときに竜骨弁が下がって花粉が付く。